



## 東地中海地域ニュース

### イスラエル・パレスチナ：オルメルト首相・アッバス大統領会談（8月29日付現地紙）

1. 情勢協議（8月28日 エルサレムで開催）
  - (1) 会談の第一部では、西岸及びガザ情勢が協議された。アッバス大統領はオルメルト首相に対し、2002年にベツレヘムの生誕教会での立て籠もり追放された活動家の恩赦、及び更なるパレスチナ人囚人の解放を求めた。
  - (2) アッバス大統領はオルメルト首相に対し、同大統領傘下の治安部隊の強化及び同部隊の西岸全域での展開に向けたデイトン米治安調整官の計画の促進を要請した。これに対しオルメルト首相は、同治安調整官から計画の詳細を聞いた後、西岸への武器及び装備の移送を認めるか否かを決定すると述べた。
  - (3) 両首脳は、ハマスによるエジプトからガザ地区への武器密輸につき協議した。両者は、エジプトに対する国際的な圧力を醸成するよう協力することを合意した。
2. 原則合意に関する協議
  - (1) 会談の第二部は、11月にワシントンで開催予定の中東和平に関する国際会議に提示される「原則合意」に関する協議が両者のみで行われた。
  - (2) オルメルト首相及びアッバス大統領は、国境、エルサレム、難民問題等の中心的議題について協議した。
3. 今後の予定
  - (1) オルメルト首相はアッバス大統領との会合を重ね、近日中にもう1~2回会合を行い、「原則合意」を具体化する可能性を判断することとし、具体化する可能性がある場合には、「原則合意」の詳細に関する専門家チームが選出されるとの見通しを述べた。オルメルト首相の側近筋は、両者が10月末までに具体化作業を終えることを計画していると述べた。
  - (2) アッバス大統領は、10月にテルアビブを訪問して、オルメルト首相及びブレア特使と共に、和平進展に向けたイスラエル・パレスチナ実業家委員会に出席する予定。